

今年の全タク連総会

6月27日は全タク連の第107回通常総会、そして時代を画す総会ではなかったかと思う。

この10年の規制緩和による弊害に対し「適正化と活性化」という軸で業界の社会へ

の対処を領導してきた富田会長が、引退を決意し、33歳若い川鍋新会長にバトンタッチしたからである。

巨視的に考えれば、総会の閉会の辞を述べた天野副会長の言葉にあったように、「時代が必要とする時に必要とされる人材が現れた」ということなのだと思う。多少の行き違いや、試行錯誤があるかもしれないが、川鍋新会長の持つ世界観のレベル、推進力、人脈、政治力が、いわゆる外資系ライドシェア勢力に伍し、業界全体を新しい移動産業の地平にまで押し上げるための欠くべからざる力になるだろうという気がする。



単に業界の既得権力を守るといふ低い動機ではなく、ある意味、100年経って少々ガタの来ている旧来のビ

清野吉光氏のコラム 第102回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に就任。2016年3月システムオリジン社長退任。チームネクスト事務局長。



孫がくれた200円

ビジネスモデルから、まさにUber、Lyftのビジネスモデルさえ包摂したタクシー業界の新しいビジネスモデルを作る局面に来たということだと思われ、逆にそれができなければ、残念ながらタクシー業界は一挙に利用者への支持を失い、衰退していくのだと思う。

幸い、現在のタクシー業界のサービスレベルの高さと日本社会の民度のために価格の安さだけを優先するのではなく、安全・安心なしの移動はあり得ないという社会的認知が成り立つが故に、今回の一連の政府の諮問会議では、白タク・ライドシェアの現時点での推進を押しとどめることができた。

問題はこれからだ。細やかな工夫によるニーズの掘り起こしと顕在化、IT活用による利用者の利便性とマッチング率、実車時間率の向上、乗務員の多能力養成とおもてなしレベルの向上、そして何よりもやりがいと働き甲斐のある職業として、タクシー乗務員からコンシェルジュ乗務員への変化を作っていくかなくてはいけない。

川鍋新会長に期待するところ大であり、必ずやそうした世界を作り上げてくれるのではないかと思う。

マニラの現実

実は9月のチームネクスト海外研修の段取りと下見の為に、先々週フィリピンのマニラに4日ほど行ってきた。弊社タクシーアシストの野田常務と共に、初めて行くマニラで、正直半分ビビりながらの旅だったのだが、いま成長盛りのマニラは新しい街区が次々と開発され、東京都心と変わらぬ街並み(例えばBonifacio High Streetやマカティ中心街など)も出現してきている。もちろん、そのすぐ隣にスラム街などがあつたりもするアジア的な世界が存在するのだが。

マニラでは、クラブ・タクシー(タクシーが配車アプリ「クラブ」の仕事を受けている)も存在するが、もちろんライドシェアのクラブやUberも存在する。自分で家用車を所有している人もいますが、多くは家用車を持

つオーナーに使用料を払い
(1日2000ペソ、日本円
で約4500円)、稼いでい
る。

アジアのタクシーでよく
ある名義貸しとさして変わ
らないが、GrabやUber
は配車の利便性と評価制度
があるが故か、運転や対応も
悪くなく、利用者からの評判
も良い。それ故かここ2、3
年でタクシーの乗務員も対
抗上、その質が非常に良くな
ったとのこと。

もともとマニラではタク
シーの安全・安心はあまり担
保されておらず、また社会的
にもその価値が優先されて
いないので、GrabやUbe
rなどのライドシェアへの
市民の抵抗は少なく、一気に
社会的に拡がっている(規制
当局による台数制限はある
ようだが、守られておらず、
問題になっているようだ)。

フィリピン独自の移動手
段として、乗合バスのような
「ジープニー」がいたるとこ
ろに走っており(一応路線が
あるようだが)、また手作りの
「トライスクル」が地域は
限定されるようだが安価な
移動手段として存在する。

9月の海外研修ではこう
したフィリピンの交通事情
と現地の白タク・ライドシェ
ア問題についてフィリピン
大学の研究者からプレゼン
を受け、議論をする段取りが
ついた。

また、「マニラ・ブリテン」
というマニラ最大の新聞社
が、思いもかけず、我々下見
部隊(?)を歓迎してくれた。
トップレベルの人が数人で
対応してくれ、しかもその新
聞社のお抱えシェフが作る
ランチまでご馳走になった。

そして9月の交流会には、先
方もチームネクスト訪問者
とほぼ同数の10人が参加す
るほか、タクシーなどの規制
を担当するフィリピン陸上
交通事業許可規制委員会
(LTFRB)と、首都圏で
あるメトロマニラの交通全
体の規制を監督しているM
MDA(マニラ首都開発庁)
の担当者に依頼してプレゼ
ンを準備してくれるという。
大した接点もコネもない
我々に何故ここまでしてく
れるのかと、半分訝しがりな
がらも、この提案を喜んで受
け入れることにした。もしか
して、我々が日本のタクシー

業界、行政の重要人物と勘違
いしているのではないか(確
かにチームネクストのメン
バーには重要人物は多いで
すが…)と思いつつ、とにかく
実りの多い意見交換会に
するべく準備をすることに
した。

さらに、マニラで500台
を持つ日本人タクシー経営
者との交流も企画されてい
るので、是非興味のある方は
チームネクスト事務局まで
連絡下さい。

孫がくれた200円

突然話が変わって申し訳
ないが、今月号のコラムの表
題にもなっている「孫がくれ
た200円」の事を書きたい
と思う。

実は、以前にコラムにも書
いたことがあるのだが、私に
は6歳の男の子の孫がいる。
次男が2002年から中国・
杭州で仕事をしており、中
人の妻との間に生まれた一
粒種だ。昨年12月に、よう
やく次男ともども静岡市の
清水に引っ越して来て、二世
帯住宅で同居している。その
孫が、私の部屋に来て突然

100円玉硬貨を2つ出し、
「じいちゃんにあげる」とい
うのだ。

結構お金にしっかり者の
孫なので、意外に思ったが、
実はその前に私の部屋で孫
がホチキスを初めてみつけ
て、好奇心に駆られたような
ので使い方を教えた。そして
非常に面白がって、ホチキ
スの玉を沢山打ち続けて、袋
のようなものを作った。玉
が無駄になるとも思ったが、
嬉々として打ち続けている
孫に、「すごいね！袋ができ
ているね」とほほ無意識に
賞賛の言葉をかけ続けたの
だった。孫は私にほめられた
のが嬉しいようで、目を輝か
せていた。

ホチキスは紙を綴じるも
ので、遊びで無駄球を打つも
のではないと躰けるのも間
違ひではないと思うが、とり
あえず孫の喜びを優先した。
随分と無駄球を使ったが、実
は孫は無意識に、でも何かを
しっかり感じていて、自分の
お小遣いから200円を何
も言わずに、「ニコニコしなが
ら「じいちゃん、あげる」と
言ってくれたのだった。

(2017年6月27日記)



タクシー乗務員紹介事業

厚生労働大臣許可 有料職業紹介許可番号 13-ユ-307552

ヒューマンエンジンサポート株式会社

<http://td500.jp>

弊社は、元トップドライバー関隆氏による「流し方教室」受講の受付窓口です

ヒューマンエンジンサポート株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-12-14 廣瀬ビル1F

TEL: 03-5281-3088

